

## 第三次高知県子ども読書活動推進計画（成果と課題）

### 基本目標1 自主的に読書活動に取り組む子どもを育てる

#### 取組方針1 発達段階に応じた読書活動の推進

子どもたちが自主的に読書する習慣を身に付けるためには、乳幼児期から本に親しみながら、学童期、青年期へと子どもの成長に応じた取組がつながっていくことが大切です。特に、特別な支援が必要な子どもには、障害の特性に配慮した読書環境を整備していくことが必要です。

このため、家庭、学校、図書館が連携・協力し、子どもの発達段階に合った取組を進めていきます。

#### （1）乳幼児期における取組 【担当：生涯学習課・幼保支援課・県立図書館】

##### ■主な取組

- ・推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」と啓発用チラシを作成し、乳幼児健診時等で配付。  
（ブックスタート応援事業、**画**・子ども読み聞かせ運動（読育運動））
- ・保育者に対し、指導計画等に位置付いた指導ができるよう、読書活動の意義や重要性、発達段階に応じた図書の選定、親子読書への取組等について、また、保護者や公立図書館等の職員、読書ボランティア等との連携について、園内研修等の機会を捉え啓発する。（園内研修支援事業）
- ・オーテピア高知図書館による支援（子どもと本をつなぐイベントの実施、児童図書等の資料の充実）

##### ■成果

- ・推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」と啓発用チラシの配付  
（平成29年から令和元年度：19,641部）
- ・継続した取組によって、県内の多くの自治体では乳幼児健診時等で、乳幼児とその保護者に向けて推薦図書リストの配付や絵本のプレゼント、読み聞かせ等の親子間での読書活動に関わる取組が行われている。（32市町村で実施）
- ・読書活動についての園内研修の実施や年間指導計画に読書活動を位置付けている園が増加。  
（研修実施率：平成29年度 77.2% → 令和元年度 82.8%）
- ・オーテピア高知図書館では、毎週、定例のお話会を実施するほか、月1回乳幼児向けのお話会も行った。また、手話によるお話会や外国語のお話会も実施。

##### ■課題

- ・市町村によって乳幼児とその保護者に向けた読書活動を支援する取組の内容に差が生じている。
- ・親子間・家庭内での読書活動は個人の意思に依存するところで、保護者の読書に対する理解や認識の違いによって、子どもの本に対する親しみや読書習慣の形成に影響を与えている。
- ・保護者、図書館、ボランティア等の連携は、伸び悩みが見られる。  
（連携の実施率：平成29年度 86.8% → 令和元年度 85.2%）
- ・園児と小中高生との読書活動の交流は増加しているが、園児と小中学校の教職員との読書活動は非常に少ない。

## (2) 学童期から青年中期における取組【担当：小中学校課・高等学校課・生涯学習課・県立図書館】

### ■主な取組

- ・多様な種類の読み物に親しみ、学習にも活用できる、推薦図書リスト「きっとある キミの心にひびく本」を新入学児童生徒に配付。
- ・読書楽力検定の利活用の推進 (☑・読書楽力検定事業)
- ・高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用や生徒の自主的な読書活動、学校図書館の情報発信の推進。(☑・高等学校学校図書館教育推進事業)
- ・オーテピア高知図書館による図書の資料収集・提供、イベント等の実施。

### ■成果

- ・「きっとある キミの心に ひびく本」を改訂し、幅広いジャンルの本を児童生徒に紹介することができた。(令和元年度の配付数：11,300冊)
- ・「読書楽力検定」に延べ1,936人が参加(平成29年度～令和元年度)
- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に活用するための講義やワークショップを行い、図書館を利用した授業の増加につながった。
- ・オーテピア高知図書館は開館当初、ティーンズ向け資料が不十分であったが、積極的な選書により充実した。(児童図書購入点数:令和元年度 1,688点)
- ・図書館の利用者も参加して「ティーンズ通信」を作成し、多方面にサービスを展開した。

### ■課題

- ・全国学力・学習状況調査において「読書が好き」と回答する児童生徒は依然として全国と比べて高いが、不読率に改善傾向が見られない。
- ・地域や家庭と連携し、読書の習慣化や読書意欲を高める取組が必要である。
- ・読書を促すだけでは習慣づけるまでには至らない。児童・生徒にとって習慣づけの確立のためには、読書環境の整備を進める必要があり、本と子供をつなぐ学校司書や図書支援員の積極的な働きかけやアドバイスが求められる。
- ・高等学校における朝の読書の実施校については、固定化されている。
- ・図書館に自習にしか来ないティーンズをどのように読書や図書館資料を使った探究的な学習に導いていくかが課題である。

## (3) 特別な支援が必要な子どものための取組【担当：特別支援教育課・県立図書館】

### ■主な取組

- ・特別支援学校における読書活動の充実(特別支援学校読書活動推進事業(令和元年度まで))
- ・特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実
- ・オーテピア高知声と点字の図書館と連携したサービスや資料を提供。

## ■成果

- ・読書週間の設定や図書・視聴覚便りの発行といった活動の定着化（令和2年度：12/13校）
- ・外部講師を招聘した読み聞かせや朗読、エプロンシアター等の取組が進み、読書活動の充実を図ることができた。
- ・オーテピア高知図書館の利用が増加している。
- ・デージー図書や点字図書の活用、選書会の開催等、障害特性や発達段階に応じた図書室の活用を進めるための取り組みができています。
- ・高校生によるボランティアが作成した布の絵本を図書館資料として受け入れることができた。

## ■課題

- ・障害特性に応じた読み聞かせについて、教員の読書指導力向上を視点において取り組む必要がある。
- ・児童・生徒数の増加で、学校によっては図書室のスペースや資料の確保に課題がある。
- ・マルチ・メディア・デージー資料や、LL 図書、布絵本等をボランティアその他の協力者により作成していくことを進めて行く必要がある。
- ・障害のある子どもでも利用できる、リフロー型の電子書籍やオーディオ・ブックを増やし、広報していく。

## （4）子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

【担当：小中学校課・高等学校課・特別支援教育課・生涯学習課】

### ■主な取組

- ・市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援
- ・「子ども読書の日」（4月23日）等の啓発
- ・文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発

### ■成果

- ・計画の改訂を行っている市町村に対して、優良事例の紹介や他市町村の策定状況等の情報提供を行うことで、モデル事例の横展開が図れた。
- ・文部科学大臣表彰を受賞した学校は、取組を評価されることにより、学校図書館を利活用した教育活動に引き続き意欲的に取り組んでいる。
- ・文部科学大臣表彰を受賞した高等学校が、高知県学校図書館教育研究大会の分科会（高校部会）において学校図書館活動の実践事例を発表し、県内の高等学校の読書活動の推進について一役を担うとともに、好事例の情報共有へとつながった。

### ■課題

- ・計画の作成は33市町村で行われているが、その改訂が行われていない自治体は15市町村である。（令和2年10月現在）
- ・各教育事務所や市町村教育委員会等と連携、情報共有しながら、特色ある優れた実践を行っている学校の掘り起こしが必要である。

## 基本目標1 自主的に読書活動に取り組む子どもを育てる

### 取組方針2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

近年、地域の人間関係の希薄化や教育力の低下がいわれる中で、読書を通じて地域の様々な人と関わり、触れ合うことにより、人とのつながりを深めていくことは、意義深いものです。

こうした観点から、読書を通じて地域との関わりを再構築し、地域との交流の中で子どもたちの感性を豊かにしていく取組を進めていきます。

#### 【担当：幼保支援課・小中学校課・高等学校課・生涯学習課】

##### ■主な取組

- ・読書活動を通じた異年齢交流の促進
- ・地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進（地域学校協働本部事業）
- ・NPOと連携した読書環境の改善（画・出張図書館事業）
- ・地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進

##### ■成果

- ・保育所・幼稚園等での小中高生との交流では、絵本の読み聞かせが多く実施されており、交流を実施する園も年々増加傾向にある。
- ・指定校においては、上級生が下級生に読み聞かせを行うなどの異学年交流を行うことで、読書活動の活性化が図られている。
- ・高校生が授業やボランティア等で園児に絵本の読み聞かせを行い、異年齢交流を通じた読書活動を進めることができた。また、読み聞かせの活動が、公共図書館との連携や、生徒自身が目的を持って選書することにつながっている。
- ・平成30年度において地域学校協働本部事業の活動・取組として報告されているだけでも、135校で読み聞かせが実施された。

##### ■課題

- ・異校種に読み聞かせに行くなどの校種間連携を行っている学校が少ない。
- ・読書活動に関する異年齢交流や異校種間交流の取組状況については、学校によって個々別々である。
- ・図書館・図書室として、新たなイベントの開催や連携体制を構築する人員が不足している。
- ・公立図書館が未設置の地域において、「出張図書館」を実施するには地域住民の理解や協力だけでなく、市町村教育委員会との綿密な連携が必要である。

## 基本目標 2 情報を読み取り活用する子どもを育てる

### 取組方針 3 学校教育における読書活動の推進

子どもが読書習慣を身に付けるうえで、学校の果たす役割は大きく、「本を読むこと自体が楽しい」という読み方を学校教育の中で教える必要があります。そのため、教職員全員が読書活動の重要性を認識し、学校をあげて取り組むことが重要です。

本県の子どもたちの課題となっている思考力や表現力を育むためには、発達段階に応じて「アクティブ・ラーニング」の視点に基づいた読書活動を進めていく必要があります。

このため、学校図書館の機能強化を図るとともに、学校における探究型学習の実践など様々な取組を通じて、情報を活用する力の基盤となる読書活動を推進していきます。

#### 【担当：小中学校課・高等学校課・県立図書館】

##### ■主な取組

###### (1) 学校図書館の機能の充実

- ・学校図書館図書標準達成校数の拡大
- ・レファレンスの協力
- ・パスファインダーやブックリストの作成・提供
- ・学校図書館の要望に応じたまとめ貸出し

###### (2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

- ・小、中、義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進
- ・研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・発展的な学習の推進
  - 〔重〕・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業（学校図書館活用型）  
⇒学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業（平成30年度から）
- ・高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用や生徒の自主的な読書活動、学校図書館の情報発信の推進。（〔重〕・高等学校学校図書館教育推進事業）（再掲）
- ・オーテピア高知図書館による調べ学習に役立つ資料の収集、提供

##### ■成果

###### (1) 学校図書館の機能の充実

- ・県立図書館から県立学校（高校）へのまとめ貸しについては一定の準備を整えることができた。

###### (2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

- ・各教育事務所等と連携し、各指定校の進捗状況等について共有化を図るとともに、計画的・継続的な指導・助言を行うことができた。
- ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が学校図書館資料を活用した授業について研究し、学び合う場を設けたことで、授業改善につながった。
- ・授業における学校図書館や図書館資料の活用方法及び効果について発信することができた。

- ・学校新聞づくりコンクールを開催し、年度を重ねるごとに応募数等が増加した。

【平成 30 年度と平成 31 年度(令和元年度) の比較】

参加校数の増加：99 校（H30 年度比：+14 校）、取組数の増加：5216 点（H30 年度比：+418 点）

応募作品数の増加：161 点（H30 年度比：+33 点）

■課題

（1）学校図書館の機能の充実

- ・市町村立図書館が学校図書館の後方支援を行う必要がある。
- ・図書館がない自治体の学校図書館支援をどのように行うか明確にする必要がある。

（2）情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

- ・指定校以外の学校図書館の組織的、計画的な活用の推進が不十分である。
- ・教科（特に算数・数学）によっては、学校図書館資料の活用の難しさを感じた学校も多い。

## 基本目標3 あらゆる機会とあらゆる場所において読書ができる環境をつくる

### 取組方針4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

地域の読書環境の格差を改善するため、県立図書館が県内全域の読書環境の向上に向けた支援に取り組んでいますが、平成30年夏の「オーテピア高知図書館」の開館を契機に、多様な本に出会う機会が限られる地域の読書環境の底上げに向けて、市町村立図書館等への支援の強化、学校図書館との連携など「知の拠点」としてのサービスの充実・強化を図ります。

#### 【担当：県立図書館】

##### ■主な取組

- (1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実
  - ・レファレンスの充実
  - ・電子書籍の導入
  - ・物流便による資料の配送
  - ・児童図書等の資料の充実
  - ・読書の楽しさを知るイベントの実施
  - ・上映会、体験会の開催
  - ・貸出サービスの充実
- (2) 市町村立図書館等への支援
  - ・児童書の全点購入による選書支援
  - ・児童サービス研修会等の実施
  - ・相互貸借の活性化
  - ・図書館活用講座の実施
- (3) 学校図書館との連携・協力
  - ・市町村立図書館等へのまとめ貸し
  - ・訪問支援、研修
  - ・パスファインダーやブックリストの作成、提供

##### ■成果

- (1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実
  - ・レファレンス・サービスについては、オーテピア高知図書館開館後の件数は想定より多くなっている。(こどもカウンターでのレファレンス件数:令和元年度 所蔵7,301件 事項799件)
- (2) 市町村立図書館等への支援
  - ・児童図書選定支援コーナーを設け、市町村立図書館(室)、団体等が閲覧できるようにしている。市町村で選定の参考にした実績も出てきている。
  - ・市町村図書館の職員等に対して、研修会、勉強会、図書館活用講座等、多彩に実施している。
- (3) 学校図書館との連携・協力
  - ・市町村への一括貸出冊数:令和元年度 4,583冊(うち学校依頼による貸出 2,754冊)

##### ■課題

- (1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実
  - ・試験対策の座席利用のためにのみ来館する生徒に対し、日常的な読書に導くことができていない。「学習」は試験勉強だけではなく、読書もあることを知らせる必要がある。
- (2) 市町村立図書館等への支援
  - ・児童図書選定支援コーナーは利用要件を段階的に緩和し、使いやすくしたが、なお、認知度を

上げることが必要である。

- ・児童図書の選定や児童サービスの運営については、ノウハウを伝えるなどの支援が必要。
- ・児童サービスに関するアウトリーチについては、あまり取り組めていない。

(3) 学校図書館との連携・協力

- ・図書館未設置町村の学校図書館の支援体制の確立が必要である。

## 基本目標3 あらゆる機会とあらゆる場所において読書ができる環境をつくる

### 取組方針5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あるごとに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

#### 【担当：生涯学習課・県立図書館・高等学校課・教育センター】

##### ■主な取組

- ・地域や学校で読み聞かせ等を行う読書ボランティアの資質向上を図る講座の実施。(重・読書ボランティア養成講座)
- ・読書ボランティアの核となる人材を育てるとともに、グループの組織化を図る。(重・読書ボランティア機能強化事業)
- ・学校図書館の環境整備や読書に関する広報・啓発に取り組む児童・生徒の育成を支援。(重・子ども司書養成事業)
- ・オーテピア高知図書館による、図書館職員やボランティアを対象とした研修会、勉強会、図書館活用講座等の実施。(再掲)
- ・幼稚園や保育園の職員を対象に、絵本の果たす役割や発達にふさわしい絵本の選び方や読み聞かせの技術等を学ぶ研修の実施。(保育技術専門講座)
- ・高等学校では大学や県立図書館と連携し「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を実施。
- ・教職員等の学校図書館活用力の向上

##### ■成果

- ・読書ボランティア講座では、読み聞かせの技術や年齢にあった本の選定方等学び、活動の中で生じる疑問・課題への対応方法といった情報交換の場としても機能した。  
(平成29年度から令和元年度までの参加者数 563人)
- ・「子ども司書」に延べ154人が認定(平成29年度～令和元年度)
- ・園内研修等で訪問する園の読書環境を見てみると、子どもがすぐ絵本を手にとることができる環境をつくっていたり、子どもの実態、季節、行事等、保育内容にあった絵本の選定をしたりしている園が多くなっている。
- ・県立高等学校の学校図書館システムのクラウド化により、学校図書館が有する読書センター、学習センター及び情報センターとしての三つの機能を発揮するための環境整備が進んだことで、学校図書館に携わる教職員が、それぞれに求められる役割・職務を果たすための一助となっている。

## ■課題

- ・読書活動に携わる地域人材の育成については、一人一人の経験や性質を考慮したうえで、幅広く学びの機会を創出し、活動の支援環境を充実させながら、その情報が手元に届く広報が必要である。
- ・「ボランティア」の性質上、リーダーとしてその組織を先導しようとする人が現れにくく、研修内容の設定や参加者数の見込みを計画立てることができなかった。
- ・絵本の選定や読み聞かせの大切さについて伝えるとともに、地域の図書館や人材を生かしながら、豊かな読書活動につながるような研修内容を工夫していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として、多くの研修会等が実施できなかった。